

■赤松常子 労働運動家・政治家。戦前は総同盟婦人部長、戦後は社会党婦人部長になるなど、リーダーシップを発揮。

あかまつつねこ

八幡製鉄始・1897＝

山口県都濃郡徳山町で、格式ある徳応寺住職照檀(与謝野鉄幹の弟)の長女に生まれる。母は安子。_明治初期の神仏分離に活躍した赤松連城の孫で、赤松克麿の妹。赤松五百麿は弟になる。

幼時より、社会事業家の父の刑余者・孤児の救済活動の助手を務めながら育ち、

日露戦争終・1905＝8歳：

満鉄発足・・・1906＝9歳：

山口女子高等専門学校を経て、

明治天皇没・1912＝15歳：

大正政変・・・1913＝16歳：京都女子専門学校に入学。在学中、_賀川豊彦の社会事業に協力するうち、

21ヶ条要求・1915＝18歳：

_労働者の苦しみを体験しようと、学業を中断して、大阪の煙草専売局、製紙工場などで働き、

原敬首相暗殺1921＝24歳：

関東大震災・1923＝26歳：*本格的に取組もうと上京、震災後、賀川豊彦を助けて本所の保育所光の園で被災児救援活動に従事。

護憲三派圧勝1924＝27歳：

治安維持法・1925＝28歳：_兄克麿の属する総同盟鉄工組合の婦人部に参加。

円本時代始・1926＝29歳：_総同盟第1次分裂後、織本貞代にかわり総同盟婦人部で活躍。

金融恐慌・・・1927＝30歳：_総同盟婦人部長となり、野田醤油の争議を応援、同年、山田やす子らと社会民衆婦人同盟の創立に参画。

満州事変・・・1931＝34歳：日本セルロイド工場の争議を支援、

_繊維産業に働く婦人の地位向上に努力、「紡績女工の母」と称えられる。

国際連盟脱退1933＝36歳：

日中戦争始・1937＝40歳：*弾圧により総同盟が解散となり、以後雌伏。

日米開戦・・・1941＝44歳：産業報国会厚生局生活指導部の嘱託となる。

近代の超克・1942＝45歳：

敗戦・・・・1945＝48歳：*敗戦後、社会党婦人部長となり、総同盟再建・全織同盟結成に尽力、

新憲法施行・1947＝50歳：_第1回参議院全国区で当選、

極東裁判決・1948＝51歳：_芦田内閣の厚生政務次官、労働基準法制定に努める。全織婦人部長。世界連邦建設同盟創立に参加し、副会長。

朝鮮戦争始・1950＝53歳：_参議院社会労働委員会委員長に就任した。

独立回復・・・1951＝54歳：

テレビ放送始・1953＝56歳：右派社会党から立候補し、_再び当選。

美智子妃・・・1959＝62歳：_統一社会党から立候補し、参議院全国区で三度当選、同党婦人部長などを歴任。

安保闘争・・・1960＝63歳：_民主社会党の結党に参加。

同党顧問、全織同盟政治顧問、全日本仏教婦人連盟常務理事などを歴任した。

東京テレビ 1964＝67歳：*遊説中に倒れ、

大学紛争始・1965＝68歳：伊豆蕪山の温泉で、_没した。